

コ 5 ク 9 ロー 6 サン 3 ハート通信

VOL. 85

竹原運輸株式会社

発行日 平成 30 年 9 月 15 日

★事務所スタッフからの一言



皆様、いつもお世話になりありがとうございます。日頃は格別なるご厚意を賜り、心より御礼を申し上げます。

本格的に AI の時代に突入しました。

様々な分野で AI の活用による事業が始まるようです。そんな中、運送業界では何をやっていけばいいのでしょうか？

私はやはり人間がまだ上であろう？おもてなし、思いやり、気付きの部分を磨く、ことだと考えています。

ただこれでも、AI は実は膨大なデータを収集して、お客様にお勧め商品、便利なサービスの提案などは、すでに人を超えている部分があります。でもまだ人がやれることは多いはず。少なくともこの部分で AI に負けているようでは、価格や便利さ、速さではすでに負けているわけですから勝負になりません。

じゃ何をすればいいのか？

ひたすら**他人の喜ぶことを考え続けて実行すること**。そこに価値があればお客様は高くても利用してくれる。予測では AI よりも人がやってくれるサービスの方が高くなる。すでにスーパーでは、セルフレジよりも人のいるレジの方が時間がかかり、コストがかかるのに、有人レジに並んでいる人がいます。おそらくちょっとした会話をしたり、人の温かみを感じる事が理由なのではないでしょうか？

まだまだやれることはあると信じて今日も邁進する所存です。

竹原和行

「ジャストミート!」「ファイヤー!」でお馴染みの福澤フリーアナウンサーの講演を聞く機会がありました。

「相手に伝わるコミュニケーション術」を解りやすく、実技を交えながら伝授して頂きました。内容については、著書が数冊出ていますのでご興味ある方は是非ご一読下さい。

日本では「読み、書き、そろばん」の教育で、「話し方、聞き方」の教育があまり重要視されていない現状があります。諸外国では全校生徒の前で3分間スピーチを行うような取組をしている所もあるそうです。

自分の声を録音して聞いたことがあると思います。大抵は自分の声を自分で聞いてみるとがっかりしますね。伝えたいことの4割くらいしか伝わらないそうです。

伝えたい大事な言葉は

音を高く

大きく

ゆっくり

伝えたい言葉の前に、間を置いて

以上のことを意識して話すと伝わりやすいようです。

こう書くと「当たり前のこと」のようですが、実際に話す場面になってみると中々簡単に出来る事ではありません。いきなり実行しようと思っても難しいと思います。常に意識して話す訓練が必要です。大概、話し方の訓練などしていないのですが、リーダーの条件として話が分かりやすい、伝わる、滑舌が良いことは大変重要なことで、その為には訓練が必要だと改めて思いました。



社長 竹原正和

「感謝」

暑かった夏も終わりに近づきましたが、まだ暑さが残っている時期でもあり、いよいよ秋がすぐそこまで近づいてきました。

秋と言えば読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋等々よく言われますが、気候も良く過ごし易くなり我々みたいに汗を流す仕事に従事する者にとっては丁度良い時期でもあります。これから少しずつ秋が深くなって来ると、シカやイノシシなどの野生の動物による農作物への被害が多くなり、新聞、TV等を賑わすようになって来ます。原因は我々人間が野生動物のすみか(住处)に足を入れ過ぎているのか、彼らがそのために里に降りて来ているのか定かではありませんが、駆除対策のみが問題視されているように思います。昔から人間と野生動物とは共存共栄して仲良くしてきたはずです。私達はいままで全ての生き物(動植物)の恩恵を受けてきたはずですし、これに対して感謝をしなければならないはずです。なのに私達はそれをすっかり忘れてしまっているのではないのでしょうか。どのように試算したのかわかりませんが、ある本に、日本人は人生80年間で食べる米の量は6トン。これをご飯の茶碗に入れて換算すると約11万杯。さらに肉は牛5頭分、卵は3万個、砂糖は300kg等……。すべてを足し算して換算して見ると食べる食事の量は50トンだそうです。(本当かな・・・)あまりピンとこない数値ですが、人が十分に生活して行くには自分の体重の1000倍の食べ物が必要と書いてありました。まったく驚く数値です。この数値を少なからず正しいと思うならば、動植物の犠牲がなければ人間は生きてゆけないのだと相違なく思います。その中で「肥えた」「痩せた」どうしよう・・・なんて考える人は幸福者だと思います。「私達が食べている動植物の命」への感謝を決して忘れてはならないと思います。いつもなかなか言えない言葉「いただきます」「ごちそうさま」生き物の恩恵を受けて生きている私達は食事前後には感謝の気持ちを何かで表したいと思うし、忘れたくないと思います。



斉藤 洋一

暑かったですね。今年の夏は連日猛暑で 35℃くらいが当たり前で 30℃だと涼しいと錯覚するほどの夏でした。あっとゆう間の平成最後の夏でした。

私の家は私が 29 歳の時に新築した注文住宅ですがあっとゆう間に 20 年が経ち、色んなところが傷んだり機能しなくなっていたりとこれ以上放置できない箇所がでてきました。猛暑の最中にリビングのエアコンが故障しましたし、水回りが老朽化で水漏れし始めたりして修理が必要となりました。

若い時に建てた家なので、当時の憧れで素直に間取りを考えたものですから、1階はほとんど仕切りがなくリビングもダイニングもキッチンも和室も階段も同じです。夏は暑いし冬は寒い。この歳になると体に影響を及ぼします。(笑) 本来ならリビングも吹き抜けにする予定でしたが、建前のあと「悪いことは言わんさけ、吹き抜けはやめとけや。いいこと一つもないでな」と大工さんから言われ続け、途中で天井をつけてもらったのです。今ではあの大工さんに感謝しています。あと廊下を作って階段も部屋の外にすべきだったな。室内の物置をもっと作ればよかったな。。と欲をだせば後悔は尽きません。

3回建てると理想の住まいが出来る と聞いたことがありますますが正にそうかもしれませぬね。でもその年齢、時代背景など人の暮らしは変化するものです。私は今の家に満足しています。(ローンが残ってますし)(笑) 先日の台風にも耐えてくれましたし、小さいけど庭もウッドデッキもありますし、自分の居場所もありますし。家に帰るとホッとしますし。今、少し費用がかかるのが・・・

情報や物が溢れている便利な時代ですが、どこかの先生の言葉では明治時代の日本の方が「豊」だったと。あっとゆう間の 20 年、気象も人も思想も変わりました。

心豊かに平成最後の秋を満喫しましょう。

この度の豪雨、台風、地震で被害に遭われた方々、地域には心よりお見舞いを申し上げます。



池上則和

日ごとに秋の気配が色濃く感じられるようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？ 日頃よりご愛顧頂き誠にありがとうございます。

今年、日本列島に起きている自然災害は、記録的豪雪、島根県の西部地震、大阪北部地震、7月の豪雨、記録的猛暑、台風、北海道東部地震など止まることなく発生しております。

被災された皆様にお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧をお祈りいたします。

私は、平成16年7月に起きた福井豪雨にて足羽川が決壊し、その水害により義父を亡くしました。それ以来、強い雨が断続的に降り続けると、とても恐ろしく、心配で眠れなくなってしまう。ですから、日本列島各地で起きている自然災害は、決して対岸の火事と思わず、さまざまな災害に直面する可能性があると思い、常日頃から災害に対する心構えと、準備を怠らないようにと思っています。また、災害が発生した時に、一番大事なことは、躊躇せず避難し「命をまもりぬく事」です。そのことを義父より教えられたのだと思っています。

最近の天気予報では、「命に係わる危険な暑さ」や「命に係わる危険な大雨」などという表現をしています。自然災害はいつ起こるかわかりません。そういう特別警報が出た時には、大袈裟だと思わず、空振りでもいいので命を守る行動をとりましょう！



大橋 哲夫

いつも大変お世話になりありがとうございます。

9月1日は防災の日でした。何かしらきっかけがあると我が家の準備が気になる意識の低さですが、お陰様で何もしないよりは格段に良いと信じています。

以前は防災用品と言えば、揃えるのに費用が掛かるし、出番が無いので中身が把握できないイメージでした。

5年10年保管できる食品は欲しくはありませんが、更新を忘れる自信が有りますので、普段使い出来る缶詰やインスタントやレトルトを切らさないようにしています。

賞味期限の迫った物は無駄にしない為にも家族総出で食べます。

2日くらい連続すると課題が見えてくるので、次の購入に活かします。

我が家の課題を参考までに

カレーライス 子供にとっては結構辛いのが多い

インスタント麺 喉が渇きます。具がないと寂しい

缶詰 これだけで食事って思うと物足りない

野菜が無性に恋しくなります。道草の食べ方という本が気になる

水が大量に必要

挙げると欲望にはきりがありませんが、いざというときを少しでも家族を守りたいと思います。



辻川 伸吾

「人材不足」

近年、人材不足という言葉をよく耳にします。

いつから人材不足が始まったかは分かりませんが、どの企業さんも人手が足りないと言っています。

人が足りないため仕事はかどらずにお客様を待たせる事になります。最近は、お客様第一というよりは、企業の都合に合わせてといったような感じもします。

何年か前に「おもてなし」という言葉がはやりましたけれども、最近それも薄らいできているように思います。

人材不足、そんな中でもやはり人材を確保して行かなければなりません。

また、人材の流出も防いでいかなければなりません。外部的にも内部的にも対策を打っていく。当社でも人材について社内でいろいろな案を考えている所です。まだ計画の段かいではありますが、他社にはないメリットを作りだし、人材確保につなげていきたいと考えています。

今の時代、当たり前が当たり前でない時代になっていますし、昨日の常識が今日の非常識になってしまっているような時代ですから、頭を柔らかくしていろいろな方法で人材を確保して行きたいと思います。



谷口 学

朝夕はだいぶ過ごしやすくなってまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか

9月29日(土)からは福井しあわせ元気国体2018(第73回国民体育大会)が開催されます。

国体の始まりは昭和21年に京阪神地方において第1回大会が開催されて以来、毎年、各都道府県持ち回りで開催され、福井県は、昭和43年第23回国民体育大会が開催されました。

当時の福井県の人口は約75万人で、人口100万人以下の県で初めて開催された大会だったそうです。また福井国体が「親切国体」とも呼ばれ、全ての人に親切に、足りないところは真心で補おうと75万県民総参加で取り組んだ結果、天皇杯を獲得したそうです。

二巡目になる今大会も県外から来られる方々には、親切、丁寧、真心でおもてなし、私達は物流で、マナーの良さを見て頂きたいなと思います。

開会式当日、上空には航空自衛隊アクロバットチームのブルーインパルスが展示飛行を行います。運転中の方は上を見ず前をしっかりと見て下さいね。



越 邦治

